

第4節

大学への適応と満足度

1 大学での適応度

現在の大学・学部での適応度として、転学・転学部・転学科といった点から日頃意識している程度をたずねたところ、大学以外の進路変更2割、転学部・転学科3割、編入学4割と、決して少なくない学生が意識していることがわかった。大学の入試難易度や志望順位の低い学生ほど、他大学への移動を希望する学生が多いことも確認された。

大学以外の進路変更希望2割、 転学部・転学科希望3割、編入学希望4割

現代の大学生がどの程度今の大学（学部・学科）に適応しているのかを知るために、転学部・転学科（「同じ大学の他の学部や学科・コースに移りたい」）、編入学等他大学への再入学（「他の大学に入り直したい」）、あるいは大学以外への進路変更（「大学を辞めて、大学以外の進路に変更したい」）それぞれを希望する頻度という形で質問を行っている。図2-4-1はその結果を2008年調査と合わせて示したものである（ただし、大学以外への進路変更に関する質問は2012年調査の新規項目）。経年の観点からみると、いずれも数値としては減少している。これは大学教育ならびに学生支援の成果とみることも出来る。ただし、その減少幅は小さく、絶対値で見ると、転学部・転学科について意識している学生は30.0%（「よくある」+「たまにある」の%、以下同）、他の大学に入り直したいと考えている学生は41.7%と、決して安堵できるものではないと思われる。また、今回からの新規項目である「大学を辞めて、大学以外の進路に変更したい」と回答した学生は

20.2%と、これも看過できない数値となっている。もちろん、これらの学生全てが実際にそうするわけではないし、思うくらいはあるだろうが、「よくある」と回答した学生には注意が必要である。所属する大学や学部・学科に不満を抱いていたり、心理的・社会的な問題を抱えていたり、経済的な問題を強く抱えていたりするかもしれない。ここでは、更に詳細を検討してみたい。

入試難易度が下がるにつれて、他大学への移動を希望する学生が増加

次は、属性による希望割合の違いについてみてみたい。図2-4-2は、入試難易度（偏差値）別にみた希望割合の違いである。偏差値「60以上」の学生は、大学内での移動について相対的に高い割合を示していた。一方、他の大学あるいは大学以外の進路変更希望については、入試難易度が下がるにつれて高い割合を示していた。

なお、学年による希望割合にほとんど差はみられなかった（巻末の基礎集計表を参照）。言い方を変えれば、不適応感は学年進行で増加することもない代わりに減少することもない

いことが示された。縦断的に捉えているわけではないので、実際はわからないが、同じ学生が入学から卒業まで継続して不適応感を感じていることも考えられる。

.....
**大学志望順位が下がるにつれて、
 他大学への移動を希望する学生が急増**

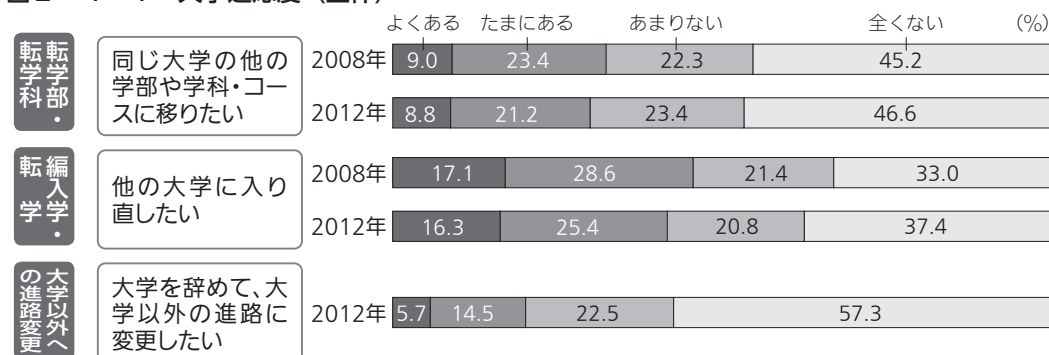
大学に不適応感を感じている学生は、入学時にどのような状態であったのだろうか。ここでは、大学志望度との関連からみてみたい。
図2-4-3をみると、志望順位が下がるほど、学内外への移動を希望する割合が増加し

ていることがわかる。特に、「他の大学に入り直したい」と感じる学生の割合が、第一志望 31.6%（「よくある」+「たまにある」の%、以下同）から第二志望 45.1%、第三志望 62.7%と順位が下がるにつれて著しく増加していることから、入学時の志望順位は少なからず在学中の不適応感に影響を及ぼしていることが推察される。浪人等を行う一定のリスクはあるものの、できる限りミスマッチを避ける形で大学に進学することが望ましいと思われる。

また、学問分野の一致・不一致による移動希望の違いを表したものが**図2-4-4**であ

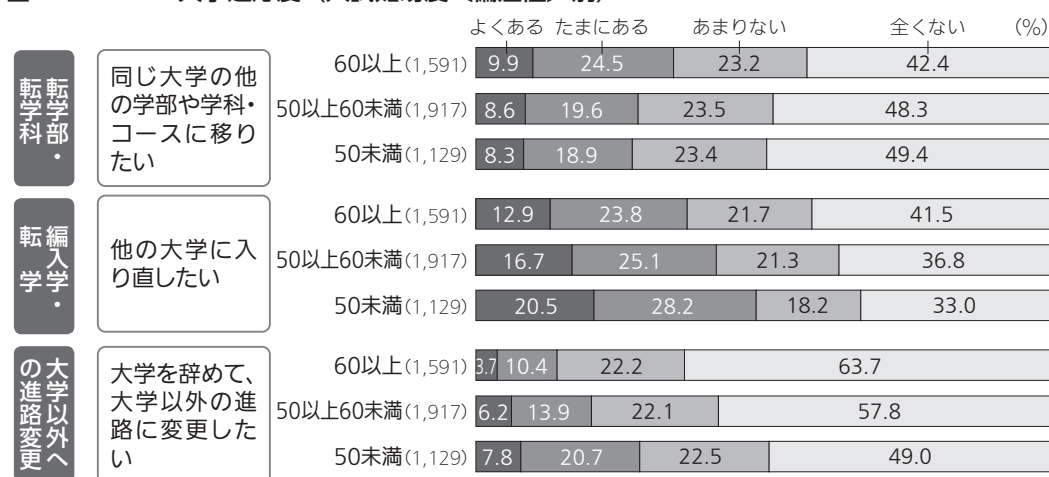
Q あなたは現在の大学生活の中で、次のように思うことはありますか。それぞれについて、あてはまるもの1つをお選びください。

図2-4-1 大学適応度（全体）



注) サンプル数は2008年4,070名、2012年4,911名。

図2-4-2 大学適応度（入試難易度〔偏差値〕別）



注) ()内はサンプル数。以下同。

る。転学部・転学科を考える頻度（「よくある」＋「たまにある」の％、以下同）については、一致26.7％、不一致43.2％と16.5ポイントの差がみられ、編入学については、一致37.4％、不一致59.0％と21.6ポイントの差が、そして大学以外の進路変更については、一致17.6％、不一致31.1％と13.5ポイントの差がみられた。このことより、学問分野の一致・不一致が大学の移動（適応度）を大きく左右していることがうかがわれ、入学前から自分が学びたい分野を決めること

と、進学を希望する学部・学科で学べることをきちんと押さえておくことが重要であるといえる。

.....
転学部・転学科希望は積極的、
転学・大学以外への進路変更希望は消極的

学生はなぜ大学・学部・学科を変わりたいと考えているのか。大学不応度を規定する要因について、学生の自由記述をもとにみてみたい。3つの質問それぞれについて「よく

図2-4-3 大学適応度（大学志望順位別）

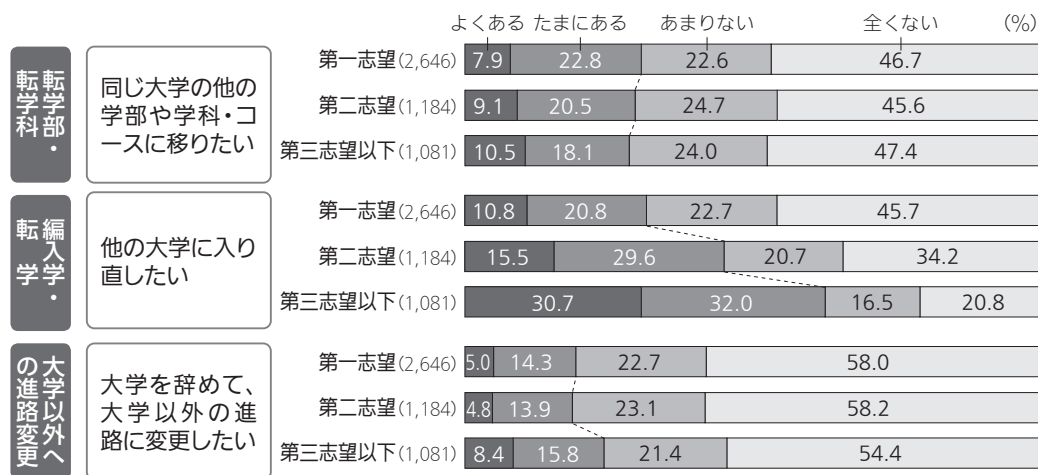
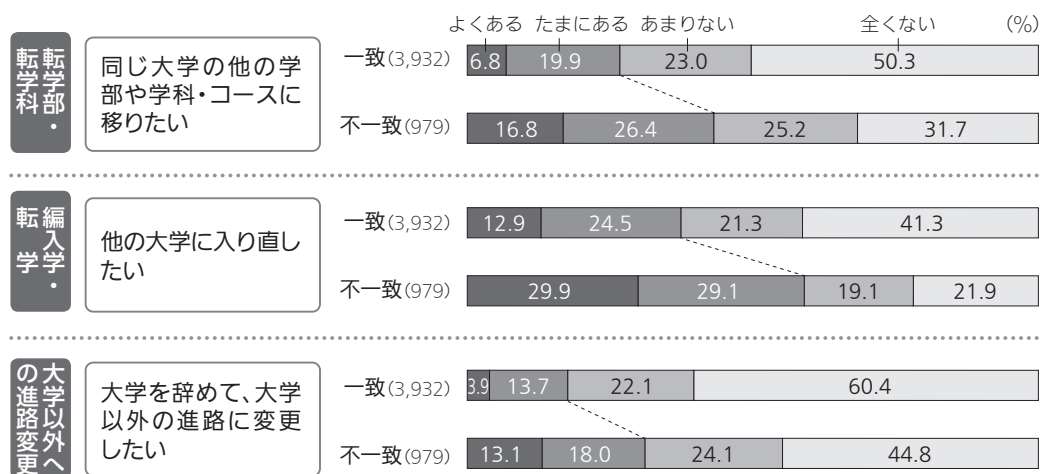


図2-4-4 大学適応度（学問分野の一致・不一致別）



ある」と回答した学生の記述内容から、多く見られた記述3～5個を抽出したのが表2-4-1である（ただし、厳密な数をカウントしたものではない）。まず、転学部・転学科の希望理由について、“自分のやりたいこと・学びたいことが他の学部等にある”といった記述を多く確認することができた。このような比較的肯定的な理由もある一方、入学前のイメージと実際のギャップ（期待外れ）や不本意入学、就職面での不安といった理由も

少なからず挙げられていた。次に、転学の希望理由について、圧倒的に多くみられたのが“来たい大学ではなかった（第一志望ではなかった）”あるいは“大学（生）のランク・知名度・レベルが低すぎる”といった否定的・消極的な記述であった。最後に、大学以外の進路変更について、“自分のやりたいことが大学では実現できない（留学や専門学校志望）”や“経済的な理由（学費が高い、早く就職したい）”も少なからず挙げられていた。


 「よくある」「たまにある」と回答した方にお聞きします）
 主な理由を簡潔にお書きください。

表2-4-1 大学不適應を規定する要因（自由記述分析）

質問内容	カテゴリー	記述内容例
転学部・転学科 同じ大学の他の学部や学科・コースに移りたい	1. やりたいことの変更／発見	勉強したい分野と今の学部で学べる分野とが違うから／大学に入った後に本当にやりたいことが決まったから
	2. 他の分野への興味	他の学問を学びたかった。今の学部の勉強に興味がない／幅広くもっといろんなことを学びたい
	3. イメージとの不一致	現在の学科は理想と違っていたから／学びたい内容と現実の差／勉強内容が自分に合わなかったから
	4. 不本意入学	入りたい学部には入れなかったから／受かった学科が第一希望でない／大学受験の時から第一志望だったから
	5. 就職の有利さ	就職活動が不安だから／将来就きたい職業と方向が違う／将来の役に立つかわからない
編入学・転学 他の大学に入り直したい	1. 不本意入学	勉強しなおして第一志望だった大学に入学したい／第一志望があきらめられなかった
	2. レベル・知名度	学歴に対して劣等感がある／学校自体のランクが低い／大学（学生）のレベルが低い／知名度が低い／大学名
	3. 大学の雰囲気	大学の雰囲気が全く合わない／大学の規模が小さい／キャンパスの周辺に何も無い／田舎すぎる／立地が悪い
大学以外への進路変更 大学を辞めて、大学以外の進路に変更したい	1. やりたいことの実現	将来やりたいことが別にできたため／起業などをしてみたい／海外へ行きたい／大学に行く意味が感じられない
	2. 就職・経済的事情	学費が高い／就職してお金を稼ぎたい／このまま大学にいて就職できるか不安／早く経済的に自立したい
	3. 専門学校希望	専門学校で芸術分野を学んでみたかった／もともと専門学校に行きたかったが親に許してもらえなかった

注) 3つの項目別に、その理由をたずねた。表は各項目に対してそのように思うことが「よくある」と回答した人の記述内容。

2 大学満足度

大学教育・学生支援等に対する満足度についてたずねたところ、「施設・設備」は最も高く(67.8%)、次いで「友人関係」(64.7%)、「大学生活を総合的に判断して」(63.2%)、「教員」(47.7%)、「授業・教育システム」(44.7%)、そして「進路支援の体制」(37.2%)となっていた。特に、「進路支援の体制」については、2008年調査より大幅に低下(12.3ポイント減)していた。

学生支援系、特に進路支援の満足度が 2008年調査から大幅低下

大学生は大学教育や学生支援についてどの程度満足しているのだろうか。ここでは、2008年調査同様、教育系2項目(授業・カリキュラム、教員)と学生支援系2項目(施設・設備、進路支援)、新規項目として友人関係1項目、そして総合的な満足度の計6つの項目を取り上げている。

図2-4-5は全体の割合を2008年調査と比較したものである。まず、中段の教育系2項目からみていく。いずれも2008年調査より満足度が若干低下している。「教員」については、「とても満足」と「まあ満足」の割合の合計(以下同)が53.1%(2008年)から47.7%(2012年)へと5.4ポイントの低下、「授業・教育システム」については、49.5%から44.7%へと4.8ポイントの低下がみられる。次に、上段の学生支援系2項目について、いずれも2008年調査より満足度は大幅に低下している。「施設・設備」では、76.0%(2008年)から67.8%(2012年)へと8.2ポイントの低下、「進路支援体制」では、49.5%から37.2%へと12.3%の低下がみられる。特に、進路支援の大幅な低下についてはこの後もう少し掘り下げてみたい。「総合的な満足度」については、2008年調査とほとんど変わっていない(0.9ポイントの低下)。また、表2-4-2の学部系統別のデータをみると、ほとんど全ての項目

で「農水産」の学生の満足度が高いことがわかる。

友人関係は総合的な大学満足度に 最も大きな影響

大学生生活の総合的な満足度に影響を与える要因はどのようなものなのか。ここでは、6つの項目間の関連性からみてみたい。表2-4-3はそれぞれの項目間の相関係数を表したものである。いずれの項目も総合満足度と高い関連性を有しているが、順番としては「友人関係」($r=.676$)が最も高く、次いで「授業・教育システム」($r=.593$)と「教員」($r=.554$)の教育系、そして「施設・設備」($r=.477$)と「進路支援体制」($r=.355$)の学生支援系となっていた。2012年の調査では友人関係に関わる項目を多く追加しているが、現代大学生の学びと成長を促す上で友人関係は極めて重要な役割を担っていることを物語っている。

学生のニーズの高まりが進路支援に対する 満足度を低下させている？

進路支援に対する満足度が大幅に低下したのはなぜだろうか。図2-4-6は、学生の希望進路先の違いによる満足度の割合を示したものである(ただし、回答率が5%未満の進路については除外する)。これをみると、民間企業や資格取得などを希望する学生にお

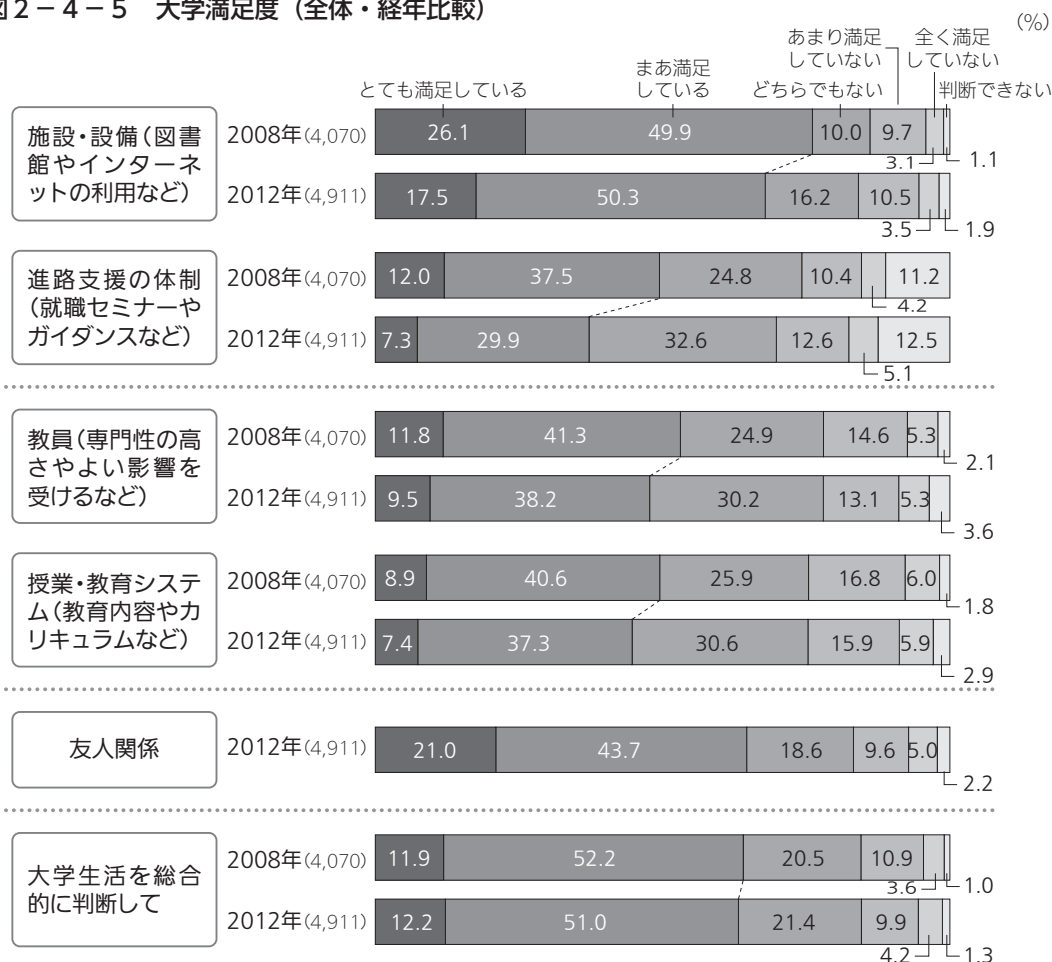
いて満足度は高く、直接進路支援を受ける必要性が低いと思われる大学院進学者が低いことがうかがえる。希望する進路に応じた支援体制の充実も重要と思われる。

その他に考えられることとして、(1) 学生を取り巻く社会の動向として、年々就職状況が厳しくなっていること、(2) 進学動機からも、多くの学生が大学進学に対して、資格取得を含め就職や将来目標について強い

関心・ニーズを有していること、(3) 学生の中で、大学は自分たちの就職等の進路選択を支援してくれるものといった認識が形成されつつあることなどからも、大学が提供する進路支援に対する意識・ニーズがより強まっている、それ故に、評価が厳しく（満足度が低く）なっているといったことも考えられる。

Q 現在通っている大学について、どのくらい満足していますか。それぞれについて、あてはまるもの1つをお選びください。

図2-4-5 大学満足度 (全体・経年比較)



注) ()内はサンプル数。

表2-4-2 大学満足度 (学部系統別)

(%)

	全体 (4,911)	人文科学 (749)	社会科学 (1,693)	理工 (937)	農水産 (216)	医・薬・保健 (556)	教育 (261)	その他 (499)
施設・設備(図書館やインターネットの利用など)	67.8	72.2	68.4	68.0	73.1	63.3	58.2	66.5
進路支援の体制(就職セミナーやガイダンスなど)	37.2	39.7	39.6	34.3	38.9	31.3	33.8	38.1
教員(専門性の高さやよい影響を受けるなど)	47.7	53.8	41.9	46.5	56.0	49.3	49.1	54.7
授業・教育システム(教育内容やカリキュラムなど)	44.7	46.7	41.7	43.4	53.7	47.5	44.0	47.3
友人関係	64.7	64.6	62.8	62.1	72.7	69.3	69.3	64.9
大学生活を総合的に判断して	63.2	65.4	61.0	61.5	75.4	62.9	65.5	64.7

注1) 「とても満足している」+「まあ満足している」の%。

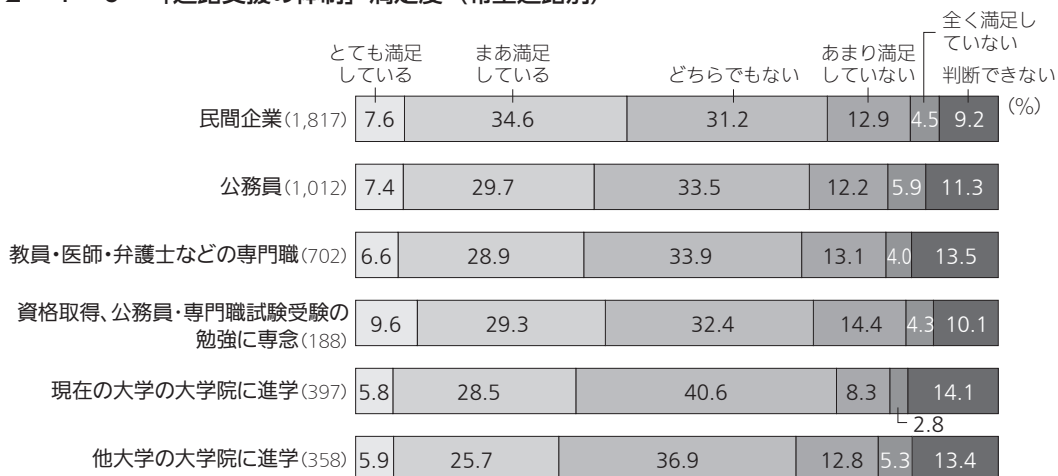
注2) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。注3) ()内はサンプル数。

表2-4-3 大学満足度の関連 (相関分析)

	施設・設備	進路支援体制	教員	授業・教育システム	友人関係	総合満足度
施設・設備	1					
進路支援体制	.382**	1				
教員	.465**	.465**	1			
授業・教育システム	.456**	.460**	.727**	1		
友人関係	.326**	.241**	.368**	.406**	1	
総合満足度	.477**	.355**	.554**	.593**	.676**	1

注) **相関係数は1%水準で有意。

図2-4-6 「進路支援の体制」満足度 (希望進路別)



注1) 希望進路は複数回答の結果。

注2) 対象は、「大学卒業後の進路(就職・大学院進学等を含む)の決定・検討状況」について準備・活動中または検討中と回答した3,080名(「進路が決定(内定)している」「希望進路についてまだ何も考えていない」と回答した人以外)。